

環境行動計画 重点プロジェクト 6つの柱と12の項目

市民×事業者×営農支援センター等×環境市民ネットワーク×行政

市の2006年度温室効果ガス排出量

90年度との比較、47.9%増

市内全域から排出された06年度温室効果ガスの排出量は78.3万トで、京都議定書の基準年である1990年度と比較すると、47.9%増であることが市の調査で分かりました。これを受け市では、市民・事業者とともに地球温暖化防止実行計画を策定し、取り組みを進めていきます。

環境像実現のための4つの柱 安曇野市環境基本計画

市は、平成20年3月、安曇野の目指すべき環境像実現のため「共存・共生」「安心・安全」「循環型社会」「参加と協働」の4つを柱に、10カ年計画である「市環境基本計画」を策定しました。さらに、同年8月には計画を推進するため「環境基本計画推進会議」を設置しました。推進会議の委員は、各種団体の代表者、環境関連の活動を行っている団体等の代表者、公募市民および行政関係者で構成され、市民・事業者・行政の取り組みの施策・事業における提案、計画推進のための啓発活動や支援、

進捗状況の点検・評価と年次報告の作成などを行っています。

重点的に進める12の項目 環境行動計画重点プロジェクト

環境基本計画推進会議では、平成20・21年度の2カ年をかけ、前述した4つの柱のほかに「地球温暖化問題への対応」と「計画の確実な進行と環境負荷低減」を加えた6つの柱からなる「環境行動計画 重点プロジェクト」を策定しました。このプロジェクトでは、基本計画に盛り込まれた取り組みのうち、特に重点的・優先的に行う必要がある12の項目を取り上げています。(左項参照)

仲間になりませんか。 安曇野環境市民ネットワーク

市内には、環境関連の市民団体が様々な活動を展開しており、環境活動への関心と意欲を持つ市民の皆さんが多数います。また、市内の事業者は、事業活動における環境への配慮や、事業を超えた社会的貢献としての環境活動を実施しています。そんな中、市民・事業者・行政は、互いに連携を図りながら環境保全の必要性を理解し、人と自然が調和したより良い環境を、将来を担う子どもたちに引き継ぐことを願って、昨年9月に「安曇野環境市民ネットワーク」を設立しました。このネット



「あづみ野環境フェア2010」(10/10)

地球温暖化問題への対応

①CO2排出量の削減

市民▼モデル地区を設定し、各家庭から排出されるCO2排出量を調査します。▼CO2削減の取り組みを推進します。

行政▼1990年と2006年のCO2推計値を算定し、現状を把握します。▼地球温暖化防止実行計画を策定し、推進します。

共存・共生をはかるべきもの

②生物多様性の維持

市民事業者行政▼生物多様性技術委員会を設置し、レッドデータブック作成に向け、資料収集・整理、市民・専門家による情報提供、補足調査実施などの検討をします。▼外来種対策のため、現況把握をし、対象種の選定、対策方針手法の検討をします。

③森づくりの推進

行政▼森林現況把握調査を実施します。▼「森づくり委員会」の設置準備をします。

④緑化による環境負荷の低減

行政▼緑のカーテン推進チームを設置し、実施施設、方法などの検

討をします。▼公共施設で緑のカーテンを実施します。▼学校校庭の芝生化試行を検証します。

⑤市民参加による

公園再生の仕組みづくり

市民事業者行政▼環境市民ネットワーク、ブランドデザイン会議などが中心となり、公園再生プロジェクトチームの組織立ち上げの検討と準備をします。

⑥水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくり

市民事業者行政▼環境市民ネットワーク、ブランドデザイン会議などが中心となり、歩いて楽しいまちづくりプロジェクトチームを設置します。▼観光資源の現況把握をします。▼整備モデル地区の選定をします。

⑦耕作放棄地を減らして 安曇野の風景を守る

営農支援センター等**行政**▼耕作放棄地の実態把握をして利活用を検討します。▼新規就農者育成支援を検討し、育成を目指します。▼新規就農者育成資金制度の創立をします。▼農地情報の提供をします。

⑧地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる

市民事業者▼地元産農産物に理解を深め、購入する機会を増やします。▼農業体験ふれあいセミナーなどに積極的に参加します。▼営農支援センター等**行政**▼地元産農産物の消費拡大に向けた具体的な方策を検討します。▼農業体験ふれあいセミナーなどを開催します。**行政**▼学校給食における地域食材の使用率を向上させます。

安全 安心な暮らしを支えるもの

⑨豊かな地下水の保全

市民事業者行政▼地下水実態調査の評価をし、排水・涵養の義務など、どのような制度が良いかを検討します。▼地下水利用の基本方針および保全条例制定のための検討を開始します。

循環型社会をつくるもの

⑩ごみを減らす

市民▼安曇で実行しやすい段ボール堆肥を市内に広める行動をします。▼家庭系生ごみ処理の具体策を行政とともに研究します。

行政▼段ボール堆肥などの支援を行うとともに、市民の意見を聞く機会を設けて、焼却によらない生ごみ処理の方策の検討を進めます。

参加と協働

⑪環境について教え学び、 取り組む仕組みづくり

環境市民ネットワーク**行政**▼環境学習推進チーム(仮称)を設置し、教育委員会との連携をとりつつ、環境学習のあり方、進め方について検討します。

行政▼市民大学や生涯学習などで環境講座を開催します。▼環境情報のライブラリー化を検討します。

⑫環境マネジメントシステムの導入

計画の確実な進行と環境負荷低減**行政**▼環境マネジメントシステム(EMS)の庁内への導入を、庁内関連部署により検討します。